

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503312		
法人名	医療法人社団 弘恵会		
事業所名	グループホーム 生きがい2		
所在地	札幌市白石区北郷2条4丁目6番12号		
自己評価作成日	平成25年7月7日	評価結果市町村受理日	平成25年8月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kanl=true&JigyosyoCd=0170503312-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年7月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>JR白石駅北口より徒歩3分、バスも複数路通っており交通の便が良い 整形外科に併設しており医療支援体制が充実しておりリハビリも受ける事ができる 施設は2ユニットがワンフロアにあり開放的でユニット間の往来も自由に行える 防火設備も完備している 利用者御家族も頻繁に訪訪してくれている 音楽療法が月に3〜4回行われ楽しませている</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>JR白石駅に近く、周辺に銀行や生協もある商店街に位置するグループホームである。3階建ての建物の1、2階が法人母体の整形外科・内科医院で、3階が事業所となっているが、1つのフロアに2ユニットがあり、真ん中の明かり窓部分を囲んだ回廊式の明るく開放的な共用空間となっており、居間と食堂部分は広く、壁には絵画や季節の装飾が飾られ、活動意欲を持たせる遊び道具やピアノも用意されている。明るさや温度、湿度なども調整され快適に過ごすことができる。車椅子対応の広いトイレや洗面台、職員用のトイレもあり、設備が整っている。毎日の食事は、食材会社の献立と食材を使用しているが、高齢者の好みに合わせて調理法を変えるなどの工夫をし、利用者の楽しみになっている。開設してから8年を経過しているため利用者の介護度も上昇し、日常的な外出や外出行事の実施が難しくなってきたが、家族の協力を得ながら近隣商店街の美容院や喫茶店などに出かける利用者もあり、建物2階の屋上庭園での外気浴も頻繁に行っている。ホーム長が利用者本位のケアに熱心に取り組んでおり、階下の医院で診療やリハビリテーションが受けられ、元院長である理事長が毎日のように様子を見にきて相談もできるので、利用者・家族の医療面での安心感は強い。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(Aユニットアウトカム項目) ※項目No.1〜55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所内に掲げ朝礼時に全員で唱和し、確認して実践につなげている	前回の外部評価を受けて、職員が理念を共有できる機会を設けるために、毎朝理念を唱和する時間を設けている。職員は理念に対する理解が深まっていると感じている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加するのが困難な為、地域のボランティアグループを招いてレクリエーションを行ったり町内会役員さんとの交流も増加した	母の日や父の日に、事業所内でボランティアのフラダンスやアコーディオンの演奏を披露してもらっている。併設されている医院の入院患者も見物し楽しんでいる。また、中学生の事業所見学や体験学習も積極的に受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会で町内会役員さんや御家族に認知症についての話を多く勉強になると言われている。見学者にも支援の方法を伝えている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議では御家族・町内会役員さんから活発な意見質問が出る為サービス向上に活かしている	2か月に1度、偶数月の水曜に運営推進会議を開催しているが年間テーマは特に設定していない。町内会役員、地域包括支援センター職員、家族等が参加して事業所の状況を報告し、意見交換している。議事録は作成しているが全家族宛には配付していない。	最近新しい利用者が増えていることから、家族に運営推進会議のことを知ってもらい意見も提出してもらうために、家族全員に年間テーマと会議の日程を予め知らせ、議事録も配付することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡を密にとり協力関係を築くよう取り組んでいる	今年になってケアマネージャーが交代したこともあり、管理者は市の担当者と頻りに連絡し相談している。市や区の管理者会議には従来は参加していたが、最近多忙なこと参加が少なくなっている。現在は業務が落ち着いてきたので、今後は積極的に参加する予定である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の移動が重なった為、外部で学ぶ機会を持てなかったが、施設内で日々話し合い虐待防止に努めている		

グループホーム 生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持ち活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族等の不安や疑問点を尋ね十分な説明を行い理解納得を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の来訪が頻繁な為意見要望を得やすく運営推進委員会で外部へ	毎週のように殆どの家族の訪問があり、管理者や職員が話し、意見を聞いている。また、年4回程度、行事の写真が豊富な「ひだまり通信」を発行しているほか、毎月、管理者が全家族宛に手紙を書いている。家族アンケートは何度か検討したが、まだ実現には至っていない。	新規の利用も増えたことから、家族アンケートの実施を再度検討し、実施することを期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りミーティング等で職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている	前回の外部評価の取り組み事項であった職員の役割分担について、食事の数や調味料の発注、防火チェック、広報誌などの係をつくり職員が担当している。また、定期的なミーティングは現在行われていないので、今後、少なくとも月1回は定期的な話し合いの場を持てるように検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況を把握し向上心を持って働けるよう整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は減ったが職員間で働きながらトレーニングを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議等で交流しネットワークづくりができ質を向上させられるよう取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と可能な限り会話し傾聴関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	開始段階で家族の悩み要望等を傾聴しその後も密に連絡をとり関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にコミュニケーションをとり良い関係を築く努力をしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切にし共に支援していく関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないように支援を努めている	宗教関係や近所の友人、以前交流のあった方々などの訪問があり、居室に案内してお茶を提供しゆっくり話してもらっている。また、家族の協力を得て馴染みの美容院に毎月通っている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し孤立しないように介入し支え合えるよう努めている		

グループホーム 生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて電話やハガキ等で連絡を入れている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望・意向の把握に努めている	前回の外部評価の取り組み事項としてアセスメントシートへ情報を蓄積するという課題があったが、利用者の介護度の上昇や入退去、ケアマネージャーの不在の期間などにより十分な取り組みはまだできていない。	前回は継続して、個々の利用者について本人や家族から情報を得てアセスメントに蓄積し、職員が共有できるような仕組みづくりを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の現状把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族の来訪が頻繁な為意見の交換が可能。現状に即した介護計画を作成しやすい	前回の外部評価で、期待したい取り組み事項であった介護計画の更新時の検討過程や話し合いの記録は整備できたが、介護計画に対応した日々の記録はまだできていない。	日々の「介護記録」を介護計画を意識して記載できるように、ケアマネージャーと職員とで話し合い、取り組まれることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録書類の見直しを行った為、職員間で実践や介護計画見直しに活かされている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援をしている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にしかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援している	階下の法人母体の医院で診療やリハビリテーションが受けられ、元院長である理事長が毎日のように様子を見にきて相談にのってくれるので、殆どの利用者が受診している。家族が通院支援をしている同院外の医療機関受診の記録については未整備のため、今後は整備を検討中である。	

グループホーム 生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と相談をし適切な受診や看護を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は病院関係者と情報交換に努め面会も行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応の方針は入居時に説明、提携する医師が家族と話し合い方針を共有している	利用開始時に、本人・家族等に重度化した場合の指針を説明し同意書に署名捺印を得ているが、文書化されたものは用意されていない。	重度化や終末期のあり方に向けた指針を文書化し、提示しながら、本人・家族に指針を説明し同意を得ることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変者の経験が多く実践力を身につけている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し職員が身につけるとともに地域の消防団員も見学され避難誘導体制を検討し協力体制を築いている	年2～3回、消防署の協力を得た夜間対応の避難訓練と昼間対応の自主避難訓練を、階下の医院と共同で行っている。訓練には地域の消防団も参加している。職員の救急救命訓練や災害時の備蓄品の用意もされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重する言葉かけや対応を心かけている	利用者の呼びかけは「さん」付けとしプライバシーに配慮しているが、利用者や家族への「笑顔」や「挨拶」などの接遇面で一部に課題もある。個人記録類は事務所に安全に保管・管理している。	利用者や家族への接遇改善のため、内部研修や勉強会を行い、さらにサービスの向上を図ることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望を表せたり自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に出来る限り希望にそえるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性には化粧をする機会をもうけ、家族の協力を得て本人の望む美容室へ行かれるようにしている		

グループホーム 生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の嗜好に合うようメニューをアレンジし楽しく食事を摂取できるようにしている	食材会社による献立と食材をもとに、利用者の好みに合わせて調理法を変えるなどの工夫をしている。職員も一緒に同じ食事を摂っており、下膳やテーブル拭きを利用者が手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減や水分摂取を把握しジュースココアなど好みの物を提供して支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各利用者様に応じた口腔ケアを行い義歯も洗浄剤を使用し清潔を保持している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者様の排泄パターンを把握しオムツ使用者もトイレ誘導を可能な限り行い排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録により利用者の排泄パターンを把握し、誘導が必要な方は羞恥心に配慮しながらさりげなく誘導している。広く使いやすいトイレを整備している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、運動への働きかけ寝たきりの方には腹部へのマッサージ等で予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒む方へは言葉かけの工夫をして支援している	水曜日以外の午後の時間帯で各利用者が概ね週2回の入浴をしており、希望に応じてシャワーのみとしたり、同性による介助を行っている。拒否がある場合は時間や日にちをずらしたり、担当者を替えて入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様の状況に応じて、安眠や休息できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の薬について把握し服用の支援、症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、家事・レクリエーション・気分転換等の支援をしている		

グループホーム 生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望で家族の協力のもと外出できるように支援している	家族の協力で近隣商店街の美容院や喫茶店などに出かける利用者もおり、建物2階の屋上庭園での外気浴も頻繁に行っている。しかし、利用者の介護度の上昇に伴い、全体としては日常的な外出や外出行事の実施が難しくなってきた。	家族や法人の支援を得ながら日々の外出や季節の外出行事が楽しめるよう、積極的な取り組みを期待したい。また、同法人経営の高齢者向け住宅の車両を借用してのドライブにも期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は所持されている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話所持している方もおられる。手紙も頻繁に届くが返送はあまりできず		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は居心地よく過ごせるよう生活感・季節感ある装飾をし不快にならない程度の温顔も流す工夫をしている	1つのフロアに2ユニットがあり、真ん中の明かり窓部分を囲んだ回廊式の明るく開放的な共用空間となっている。居間と食堂部分は広く、壁には絵画や季節の装飾が飾られ、活動意欲を持たせる遊び道具やピアノも用意されている。明るさや温度、湿度なども調整され快適に過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるよう和室の空間も使用し工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものや好みのものをと伝え居心地よく過ごせるよう工夫している	居室には馴染みの家具やベッドなどを自由に持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。壁にもカレンダーや色紙など自由に飾り付けしている。3階のため見晴らしが良く、窓から外の景色を楽しむことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・トイレ・廊下に手すりを設置、床もバリアフリー、見守りも徹底し安全で自立した生活が送れるように工夫している		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503312		
法人名	医療法人社団 弘恵会		
事業所名	グループホーム 生きがい2		
所在地	札幌市白石区北郷2条4丁目6番12号		
自己評価作成日	平成25年7月7日	評価結果市町村受理日	平成25年8月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「Aユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503312-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年7月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(Bユニットアウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で毎回全員で読み上げている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外に出る機会が少ないので、イベント等で地域のボランティアの方々に来ていただき出会うの機会を増やしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会で町内会役員さんや御家族に認知症についての話をすることが多く勉強になると言われている。見学者にも支援の方法を伝えている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会を定期的に行い情報交換をし、イベントへの参加等を話し合っている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡を密にとり協力関係を築くよう取り組んでいる		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含めて身体拘束をせず頻繁な見守りでケアに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の移動が重なった為、外部で学ぶ機会を持てなかったが、施設内で日々話し合い虐待防止に努めている		

グループホーム 生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持ち活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族等の不安や疑問点を尋ね十分な説明を行い理解納得を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に面会される御家族も多く、コミュニケーション作りを通し意見要望を話しやすい状況を作っている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞く機会を設け必要時にはノート等を使用し反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況を把握し向上心を持って働けるよう整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は減ったが職員間で働きながらトレーニングを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議等で交流しネットワークづくりができ質を向上させられるよう取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と可能な限り会話し傾聴関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	開始段階で家族の悩み要望等を傾聴しその後も密に連絡をとり関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にコミュニケーションをとり良い関係を築く努力をしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切にしながら共に支援していく関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し孤立しないように介入し支え合えるよう努めている		

グループホーム 生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて電話やハガキ等で連絡を入れている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをとりつつ希望を把握するよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の現状把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族の来訪が頻繁な為意見の交換が可能。現状に即した介護計画を作成しやすい		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録書類の見直しを行った為、職員間で実践や介護計画見直しに活かされている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援をしている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にしかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援している		

グループホーム 生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と相談をし適切な受診や看護を受けられるよう支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は病院関係者と情報交換に努め面会も行っている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応の方針は入居時に説明、提携する医師が家族と話し合い方針を共有している			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変者の経験が多く実践力を身につけている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し職員が身につけるとともに地域の消防団員も見学され避難誘導体制を検討し協力体制を築いている			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重する言葉かけや対応を心かけている			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望を表せたり自己決定できるように働きかけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に出来る限り希望にそえるよう支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性には化粧をする機会をもうけ、家族の協力を得て本人の望む美容室へ行かれるようにしている			

グループホーム 生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の嗜好に合うようメニューをアレンジし楽しく食事を摂取できるようにしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減や水分摂取を把握しジュースココアなど好みの物を提供して支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各利用者様に応じた口腔ケアを行い義歯も洗浄剤を使用し清潔を保持している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ使用の利用者も日中は積極的にトイレ誘導を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、運動への働きかけ寝たきりの方には腹部へのマッサージ等で予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒む方へは言葉かけの工夫をして支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様の状況に応じて、安眠や休息できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の薬について把握し服用の支援、症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、家事・レクリエーション・気分転換等の支援をしている		

グループホーム 生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望で家族の協力のもと外出できるように支援している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は所持されている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話所持している方もおられる。手紙も頻繁に届くが返送はあまりできず		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は居心地よく過ごせるよう生活感・季節感ある装飾をし不快にならない程度の温顔も流す工夫をしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるよう和室の空間も使用し工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたもの好みのものをと伝え居心地よく過ごせるよう工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・トイレ・廊下に手すりを設置、床もバリアフリー、見守りも徹底し安全で自立した生活が送れるように工夫している		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 生きがい2

作成日：平成 25年 7月 30日

市町村受理日：平成 25年 8月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	日常的な外出や外出行事の実践が難しくなっている	外出行事、ドライブを定期的を実施する	同法人経営の施設の車両を合同及び単独で使用できるよう管理者が連絡をとりあい、定期的に外出できるようにする	3ヶ月
2	26	介護計画に対応した日々の記録がまだできていない	介護計画を意識した記載ができる	改善された介護記録式に慣れてきた為、介護計画を意識した記載ができるようケアマネジャーと職員が話し合い、まず担当の利用者から実施し、徐々に全員の記載ができるように取り組む	3ヶ月
3	36	笑顔、挨拶など一部に課題があるスタッフがいる	全てのスタッフが笑顔で対応し挨拶を聞こえるように行える	笑顔・接遇の勉強会を行い、スタッフ間でお互いに注意しあえる環境に改善する	3ヶ月
4	33	重度化のあり方にむけた指針を説明は行っているが、文書化されていない	指針を文書化し家族に同意を得る	系列のグループホームより文書を借り指針を制作し、全利用者家族に同意を得る	3ヶ月
5	10	家族等の意見を反映する為のアンケートを2年間実施できていない	家族アンケートを実施し意見を反映する	アンケート用紙を検討作成し、全ての御家族から意見を頂けるように実施する	3ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。